



平成 22 年の年頭にあたって

新年明けましておめでとうございます。

新春にあたり、皆様方の本年の御多幸を心より御祈念申し上げます。また、日頃より本県の水産行政および試験研究業務に深い御理解と御協力を頂いておりますことに対し深く感謝申し上げます。

さて、昨年、デフレ、消費低迷、円高懸念で終始し、景気が低迷した年でした。一方、本県漁業界に目を転じると、狂乱的な燃油価格の高騰はやや収まったものの、早い時期からの大型クラゲの大量漂着、全体的な漁獲不振、さらに相変わらず続く魚価の低迷により一層厳しさを増しました。このような厳しい水産業を取り巻く環境を打破するため、県では、「水産振興プラン21」の平成22年目標年次を1年前倒して見直し、新たな水産振興戦略を策定することとしました。そこで、昨年6月に、水産関係者や学識経験者からなる「ふくいの水産業のあり方検討会」を立ち上げ、今後のふくいの水産業の方向性について知事へ提言しました。今後、県はこの提言を受け、新年度から向こう5年間の事業を策定することとしています。

ところで、昨年の年頭の挨拶にも書いたことですが、これからの水産試験場は、資源調査や増養殖の技術開発研究はもちろんですが、今まではあまり手掛けられなかった仕事にも積極的に目を向けなければならないと考えています。すなわち、限られた水産資源を永続的に利用するため、生産者のメリットだけでなく消費者のメリットをも考えた試験研究です。例えば、漁獲されながらも色々な理由で廃棄されている魚や、機能性食品として利用できるアカモク（ホンダワラの仲間の海藻でフコイダンを多く含む）のような未利用資源を積極的に漁獲し流通させるなど、水産資源を有効に利用する試験研究および普及に積極的に取り組み、漁業者の所得向上と漁村の活性化さらに「健康長寿福井」の消費者の健康維持に寄与する必要があると思います。

また、近年の厳しい水産業界を取り巻く環境の中に置かれた県水産試験場の存在意義を考えると、今まで以上の試験研究の成果を出さなければならないことは言うまでもありませんが、積極的に直接漁業者の所得向上および漁村の活性化に役立つ仕事を手掛けなければなりません。さらに、県民にその成果をわかりやすく還元することを心がけなければならないと痛感しています。このためには、場員も浜の声を吸収する努力を継続することはもちろんですが、漁業者の皆様も新しい水産試験場を身近に感じていただき気軽に利用するとともに、困ったことや変わったことなどの生の現場の声を届けていただきたい。このことにより、より一層皆様の役に立つ新しい仕事のヒントが生まれるものと思います。

長引く不況、漁業不振の中で言い古された感がありますが、このような厳しい時代だからこそ業界と行政が一丸となって知恵を出し、乗り越えていかなければなりません。ともに頑張れば暗い中でも一筋の光が見えてくるものと確信しているところです。

終わりにになりましたが、今年が皆様方にとって良い一年になりますよう、また、本年の操業安全と大漁、さらに、本県水産業界の益々の繁栄を祈念して年頭の御挨拶と致します。

福井県水産試験場長 若林 健一

〔漁の模様〕

2009年12月の県内の総水揚量は866tで、2008年同月を321t下回った。カツオ類（2009年；54t、2008年；22t以下同じ）、スルメイカ[冷凍スルメイカ主体]（204t、145t）等が上回ったものの、アジ類（65t、77t）、ブリ類（59t、122t）、サワラ（51t、200t）、キダイ（10t、27t）、アカガレイ（93t、197t）、ズワイガニ[雄]（47t、58t）等は下回った。

漁業種類別の状況

定置網 ……カツオ類等は上回ったものの、アジ類（小アジ銘柄主体）、ブリ類（ブリ・ハマチ・ツバス銘柄）、サワラ、カマス等は下回り、全体では前年を156t下回った。

底びき網 ……キダイ、アカガレイ、ズワイガニ、アカエビ等が下回り、前年を209t下回った。

釣り・他 ……スルメイカ[冷凍イカ主体]等が上回り、全体では前年を44t上回った。

〔県内主要漁業の12月の漁獲量〕

定置網				底びき網のつづき			
魚種	2009年	2008年	99-08平均	魚種	2009年	2008年	99-08平均
カタクチイワシ	25	1,849	5,820	タコ類	3,804	11,193	5,764
アジ類	64,352	77,099	52,539	ズワイガニ	46,739	58,003	42,577
サバ類	4,611	1,246	4,684	セイコガニ	23,921	23,748	27,026
マグロ類	808	3,564	1,529	アカエビ	2,530	16,579	14,908
カツオ類	53,475	22,134	28,862	その他エビ	3,949	6,516	5,786
ブリ類	42,791	95,128	76,325	その他	29,133	59,456	72,829
ヒラマサ	3,777	3,654	8,223	合計	225,222	434,360	295,479
シイラ	1,093	3,159	2,410				
サワラ	51,068	199,547	71,890				
サケ・マス	191	108	253				
マダイ	1,829	4,048	4,123				
スズキ	10,812	15,513	10,140				
ヒラメ	4,574	3,044	2,181				
カマス	3,737	10,627	8,771				
フグ類	409	904	1,158				
アオリイカ	10,935	7,196	9,278				
ケンサキイカ	286	28	538				
ソデイカ	8,749	9,996	26,828				
その他	81,350	41,816	50,869				
合計	344,871	500,660	366,422				

釣り、延縄、さし網、その他			
魚種	2009年	2008年	99-08平均
アジ類	180	158	199
マグロ類	0	36	307
ブリ類	16,526	26,402	14,848
サワラ	260	385	578
マダイ	1,929	3,519	4,292
キダイ	4,186	6,174	3,060
アマダイ	5,278	11,887	9,553
スズキ	761	1,140	610
ヒラメ	814	2,615	2,090
その他カレイ	200	343	171
アナゴ	183	223	519
メバル類	1,618	1,230	1,078
スルメイカ	203,628	144,790	165,227
アオリイカ	1,607	1,525	1,644
ケンサキイカ	82	11	1,285
ヤリイカ	63	26	418
ソデイカ	8,125	5,237	17,332
タコ類	8,153	5,064	10,864
その他	42,142	41,447	40,570
合計	295,735	252,212	274,644

底びき網			
魚種	2009年	2008年	99-08平均
マダイ	1,475	3,436	2,420
チダイ	272	839	1,669
キダイ	5,763	20,332	10,147
ヒラメ	850	3,906	1,791
アカガレイ	92,927	197,460	78,408
その他カレイ	10,981	21,027	16,878
カマス	447	3,656	4,250
アナゴ	1,226	3,370	5,824
ハタハタ	300	741	2,463
ニギス	456	2,215	1,328
ヤリイカ	448	1,883	1,411

総計	2008年	2007年	98-07平均*
	865,828	1,187,232	936,545

* まき網による漁獲量を含む。

〔近府県の漁模様〕

（12月下旬から1月中旬の漁獲状況……1日1隻または1統あたり。京都府の定置網漁獲量は舞鶴漁連への1日あたりの水揚量。）

石川県 …… 定置網 …… ブリ15kg、フクラギ43kg、アジ218kg、ウマズラハギ45kg
 京都府 …… 定置網 …… サワラ0.5t、サゴシ0.9t、カワハギ類4.3t、ブリ(ブリ・マルゴ銘柄)3.4t
 兵庫県 …… 定置網 …… アジ686kg、ツバス647kg、サワラ44kg
 鳥取県 …… まき網 …… マサバ28.7t、マアジ7.7t、ブリ類21.5t

〔海の状況 (12/21~1/20) 〕

神子表面水温・・・期間の中頃までは概ねやや高め(過去30年平均より0.5~1.0℃程度高め)～かなり高め(過去30年平均より1.0~1.5℃程度高め)の範囲で推移したが、期間の後半にはかなり低めの日(過去30年平均より1.0~1.5℃程度低め)がみられた。

米ノ表面水温・・・期間の始めはかなり低めの日(過去10年平均より1.0~1.5℃程度低め)がみられ、その後中頃にかけてかなり高め(過去10年平均より1.0~1.5℃程度高め)で推移し、平年並み(過去10年平均の±0.5℃)とかなり高めの期間が交互にみられた(図2)。

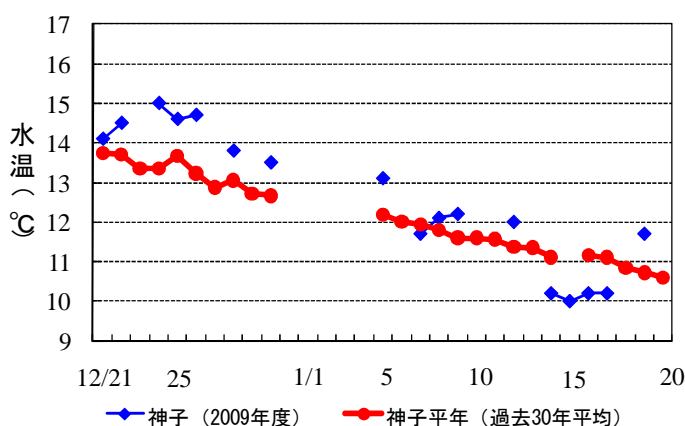


図1. 若狭町神子地先における表面水温の推移.

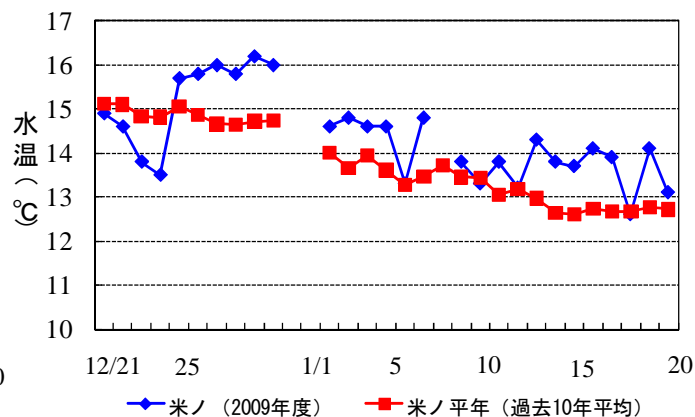


図2. 越前町米ノ地先における表面水温の推移.

100m深水温・・・1月は観測がなく若狭湾周辺のデータがないため、休止します。

(池上 輝・瀬戸 久武)

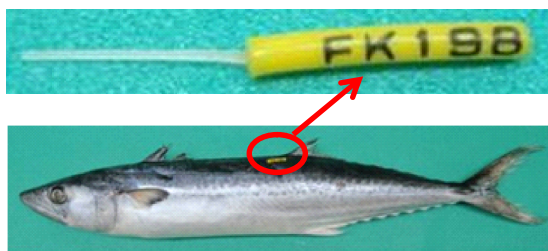
サワラの標識魚採捕情報の提供をお願いします！！

福井県水産試験場では本年度より、日本海側の各府県(青森～長崎県)および(独)日本海区水産研究所と共同して日本海のサワラの回遊分布等を明らかにするため、3年間の予定で調査を開始しました。

福井県におけるサワラの放流は、10月～11月に敦賀湾で標識を付け放流を行いました。下図のような黄色の標識タグを付けたサワラをみつけられた時は、福井県水産試験場海洋資源部の嶋田・瀬戸 (TEL 0770-26-1331)まで連絡をお願いします。

※見つけられた方は、下記の事項について連絡願います (粗品進呈)

- ①採捕年月日
- ②採捕場所
- ③サワラの全長(尾叉長)
- ④標識番号
- ⑤採捕者氏名
- ⑥漁法等



(嶋田雅弘)

マガキ養殖における付着物駆除方法とその効果

福井県西部の小浜湾ではカキ養殖が盛んであり、カキ漁獲量（殻付重量）は平成9年度以降100～220トンの範囲で推移してきましたが、平成18年度以降は100トンを切り、減少傾向にあります。その原因として、高水温によるストレスや秋の少雨による餌不足の他に、付着生物（シロボヤ、ムラサキガイ、フジツボ等）による餌の競合も考えられます。このため、カキの付着生物調査と付着物駆除試験を行いましたので、その概要を報告します。

平成19年以降3年間、8月と9月に、生簀に吊したカキ一連の重量に占めるカキおよび付着生物の重量割合について調べました(図1)。その結果、カキは50～80%を占め、付着物はシロボヤが多くを占めていました。

シロボヤの付着が多いときは収穫時の取上げ選別作業にも通常より時間と労力がかかってしまいます。そこで、付着物駆除および付着抑制方法を検討しました。付着物駆除方法として8月に淡水浴（3時間）と干出（24時間）を、付着抑制方法として、吊したカキの周りを網で囲った囲網試験を実施しました。駆除試験の結果、淡水浴および干出のいずれの方法も生簀に吊したカキ一連の重量に占めるカキの割合は80%を超える値となり、付着物の駆除効果が確認されました(図2)。

一方、囲網試験の結果、10月における生簀に吊したカキ一連の重量に占めるカキの割合は、対照区と同様の約50%となり、囲網の効果は確認されませんでした(図2)。

これらの試験区における6月から11月までの生残率は、対照区で32%であったのに対し、淡水浴で70%、干出で63%と高い値でした(図3)。今後は、さらに生残率を上げるため、駆除時期や手法について検討を行う必要があります。最後に、聞き取り調査から今年度の小浜湾のカキ漁獲量は平年並みかやや多めと予想されています。

(池田 茂則)

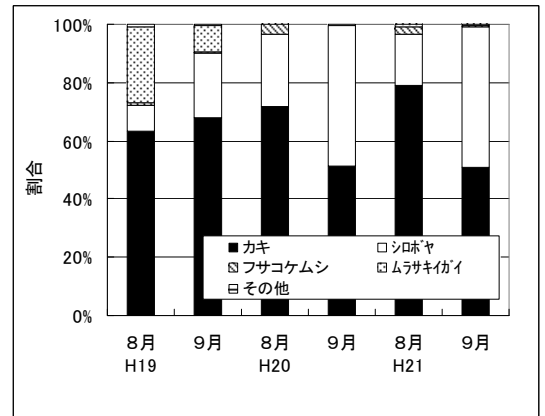


図1 対照区における付着生物に占める重量割合

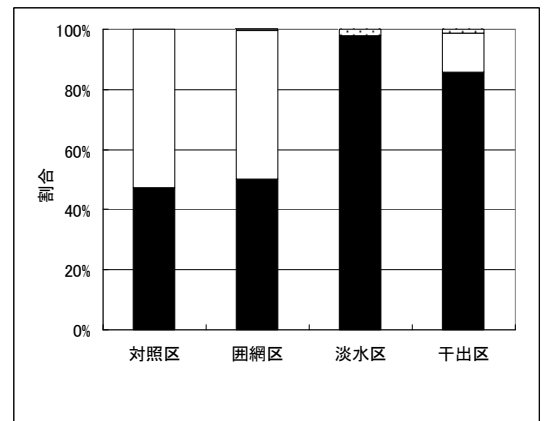


図2 10月におけるカキと付着生物の重量割合

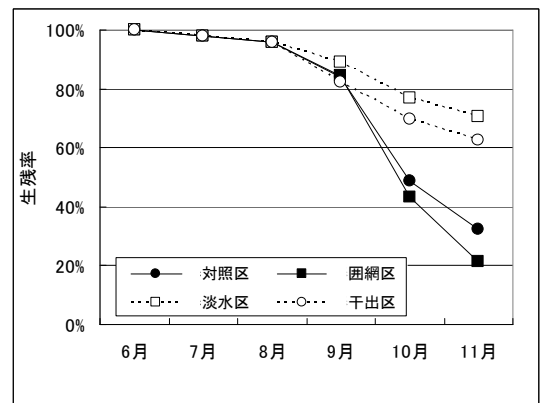


図3 付着生物駆除試験区と生残率比較